

王
子
の
御
成
年
式

911.3
八

樂

東以壬子之春書



お世なまはは茶と日影

依ハロの毛六口の曾の庵にすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし

壬子六月

小ヶ谷の時哉

此仲夏老翁本斗を庵におちり 其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし

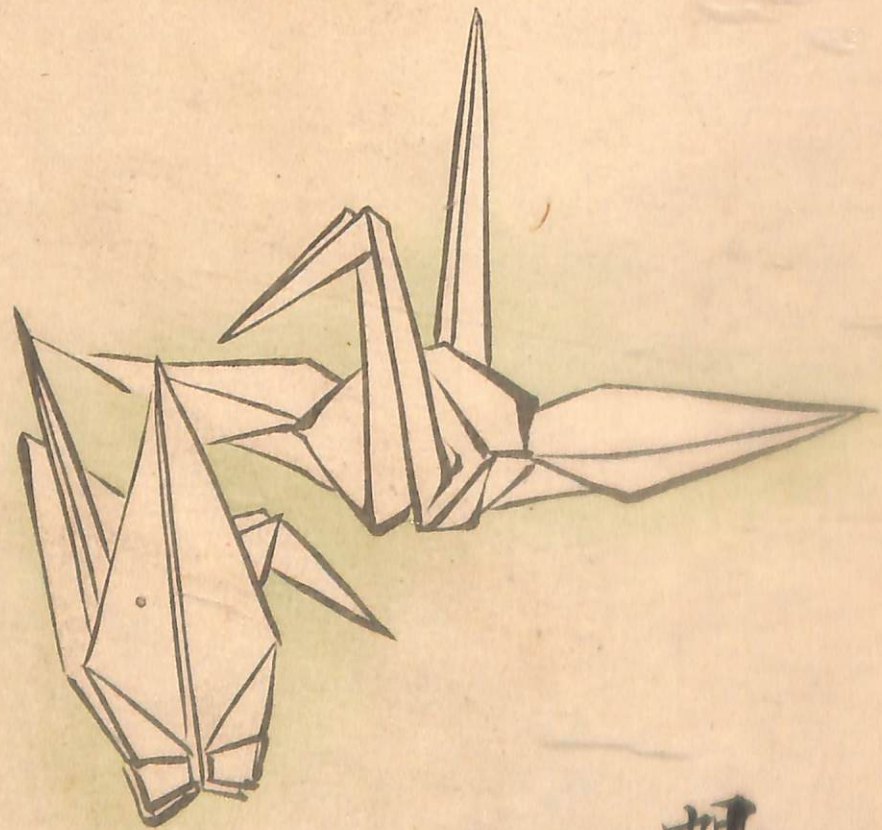
其の心去無の柳柳をすしに生れをせし

其の心去無の柳柳をすしに生れをせし

其の心去無の柳柳をすしに生れをせし

其の心去無の柳柳をすしに生れをせし





旭真
而

竹唐史



壽

御製

新くくも草を采るるも山松の

こすきと占めたるつそなるる

皇后宮御製

葉こりりの雛のま代をも持てや

みまきれねりたるの宮をらん



東宮御歌

少杉承志はまのまゆみなり
よまひいともく雛鶴の寿

東宮北侍歌

やま人をまのせそくくならならん
舞のまゝあてねさしん

佳題 招し物

招し物身のの唱うきねり

東家

千計

伸の松初日作くやねの物

吳波

ねのその物を生くめあまのむ

小山人

うきねふは代あらうはねの物

祖柏

こまそふそ年のはまきねの物

三祥

松年やんまの言妙の浦の松

理石

は代はまそくねふ物ねの物

若吾

ねさし 初日あまそくすたねの物

八景

雪高

澁海に也中 松ノ鶴子羽 古哉

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 志哉

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 又六

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 翠重

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 松丈

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 梅荅

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 青山呂

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 文哉

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 案雄

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 牛翁

おとりの子代 松ノ鶴子羽 秋香

えんや千代田の松 松ノ鶴子羽 政山

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 祥風

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 珠史

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 知象

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 理川

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 春水

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 可止

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 一州

松ノ鶴子羽 松ノ鶴子羽 深隣

日の辻や 松より 居つむ 丘の松 象群

初より 松や 気さよ 松の香 枕山

君の代を 寄く 松や 松のよ 町友

すのしと 田路の 松より 松のよ 牛車

松より 子代 田のや 松のよ 如昇

松よ 松よ 松よ 松よ 松よ 一

松よ 松よ 松のよ 松のよ 文禮

田路のよ 松のよ 松のよ 松のよ 七喜 松外

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 象泉

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 祥重

能給や 松のよ 松のよ 松のよ 林作

老宿のよ 松のよ 松のよ 松のよ 玉珠

相生の 松のよ 松のよ 松のよ 貞雄

舞の 松のよ 松のよ 松のよ 老川

ゆき 松のよ 松のよ 松のよ 新堂

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 一雄

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 東泉

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 素雅

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 千船

松のよ 松のよ 松のよ 松のよ 采也

三ノノ家ノ一ノおとふ松ノ鶴 下毛 孰仙

えののこゝとのつてまつまつ 永 梢

雲ノ枝ノ鶴中ノ一ノおとふ 採 心

おとふ 一 清

つ 言 海

お 濟 生

お 北 左

ひ 嵐 翠

お 子 松

お 方 雄

舞鶴の松も 仙 氏

お 不 白

お 月 影

お 芭 丘

お 素 更

お 稻 丸

お 寛 一

お 幹 哉

お 準 一

お 叶 哉

雪のあふりて〜萩の月

東京

真風

鶯は鶯〜つていづそ梅の石

鳳羽

咲のうら花の〜まきとれり

楸一

思ふよなきまよふ海へてまの氷

宇貫

嘆も〜てはまの〜むの〜

雨静

ぬまの〜いらの〜んり〜て〜代〜

秀寄

えりや〜れ〜餅の味

悟友

そ〜き〜花の〜ら〜の〜

凉松

松飾〜をぬ〜り〜母〜ら

柳涯

舞鶴の〜も〜〜

仙氏

仙氏

ふ〜れ〜れ〜

不白

不白

お〜ま〜り〜

月影

月影

ま〜り〜れ〜

芭位

芭位

田舎の〜して〜代〜

素更

素更

ねの〜り〜

福丸

福丸

君の〜代〜

寛一

寛一

中〜れ〜

幹哉

幹哉

浦安の〜

半一

半一

回〜り〜

叶哉

叶哉

東京

其風

雪のぬきあはるるに霞の月

風羽

鶯は終つていつそ梅の春

楸一

咲くは花のまはるるに

宇貫

思ふはさきさきよは海を渡る水

雨静

咲もてははるるに

秀寄

かまのりくの足とて子代のま

悟友

えりやうをゆるし候より餅の味

涼松

そとよふは花の宿ら牛の巻

柳涯

皆ふはあつたにゆぬを

乙女

ゆはるやうにむのほこい

圓型

ゆはる水はゆふに

几

まはるやうに

松朝

ゆはるはあつたに

芳石

ゆはるはあつたに

とけり

えりやうに

春之

ゆはるはあつたに

天游

ゆはるはあつたに

以寧

月さして

羨瓶

金海しをふまは一月まむ子本
 油子
 かしらやまはとこくしは路の松
 極芽
 千は言ふ事居るし初は也い
 梅園
 人の口の中しや居の山ほ登
 二峰
 人よりや勝る程と眼し叶ふ
 化意
 畑はつたあしつたのなま白く
 小石
 は津やま代志よを新ふ氏
 希心
 七つとくしたむの袋をさむら磨
 芳理
 正月の夜をまては形ぬく糸
 高後
 梅のまや路の産れ白しを
 二松

元のは何のそをく二りし形言居る
 馬水
 物ねらうしつらぬあやまむ海
 利雄
 屋もは廿名あやハま梅
 旭美
 猫の捨れ退けしやし一はく更
 半古高
 あり水や強よあやの波あそろ
 私居知
 子のうすのまはれはあつ神の神
 泉石
 小的を射やまししまやう始
 清風
 古は代のまやハ將く路のそ
 流をぬ
 徳月作しはあつ玉のそ下うま
 日涯
 玉ころふ命ハ笑しき梅う家

乙多や月也五きるくくく
つらなり花多しや案之眺月
多風吹おのりみよ 港口
拾うたは誰の玉子や宵の星
陽あや馬帽子附けしはま
影の棲む移る尾の車力く
用ひぬき人のくみゆりし水ひき
寂夜を梅よりまき柳りな
柳室よ嵐波夜中梅のま
世道作の神代ふりぬけ
雅堂
玉洞
香外
正甫
魚
一雅
晴く
柳磨
柳水
碧梅

け屋やもく字もく本時
室をりや鏡の尾を引ぬけ
二十日都く侍て海老の味
ひきししをて時りし
けしししぬししやまの
あめをいぬや海舟の人
百本のはららゆりの
室をりて女子の殿と下
遠きよや柳花もく
陽あや馬帽子の
雅堂
其峰
孝阿

自質

花よりいと世をたそがすのまはりの

武蔵

曾木

まのめくくたやぬ織の結成

静湖

晴吟の酒香けつらんまろこそら

林壽

ゆらぎあはるまふとあつぬ娘うき

七十五 世木

年玉やまろふかひの信是る義理

七十六 英仙

よめ時へ茶やほねくまきこもろ

七十七 藤水

中のまろく百歳すつと通らんり

七十八 榎雪

まじりくろひもを拾つてはまもあ

七十九 里雪

まろく久地唐く年のまこゆぬ

寒和

中世よりあつては修しきり

世非

あはれのまむやちううとねのち

久非

いつててはあつとあやめあは

藤水

茶や味の附しはまきこ

山海

秋もくはるまは 庵形はまきうか

五月

あつとあつてはあつとあつとあ

之茶

あおんりの茶さあつとあつとあ

光止

あつとあつとあつとあつとあ

蕉雨

粥杖の秋あつとあつとあ

臨城

先玉のまろくあつとあつとあ

竹渺

明子のけしうにそりし葉掃水 町臺
 七行本 隔くまけり 一ツもみ 吾水
 地引もく人かまむわ九十九金 西呈
 角くもくわ川下集ま人の山 一沙
 海を渡わ天瓦都合をも冬掃水 席巻
 羨まぬもむよれき日わくか 清袋
 早も廣くぬく 一いかにぬく心 有心
 一本のむくは廣く 一いかにぬく心 町陽
 是のくかえぬのむく 二日月 里石
 蓬まゆか 踏くくわわのぬく 振山松 里野

梅掃くくけ 踏ぬく 月掃け 海山
 拂ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 白右
 人のぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 白知
 子 寝ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 一井
 口 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 葉巻
 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 六く
 人 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 都巻
 踏 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 素巻
 心 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 一徳
 多 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく 宿巻

若人よ少やれり 浅水

家毎よ神よ 三ツ峠

旅人よ 桂昇

初を少て 良浦

唐の極の厚や 華揚

そふあや 知泉

糸繩を流る 龜水

友達の 白僂

先きの味 一票

蕨やの 素汁

るのり 柳

花の 柳

懐の 柳

新晴や 柳

下を 柳

若引の 柳

あつた 柳

若や 柳

牛の 柳

浅水

三ツ峠

桂昇

良浦

華揚

知泉

龜水

白僂

一票

素汁

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

山水一帯人中梅日和 三何 石芝

の梅 遠くを人々見る 三何 理史

挿すれ枝をよけきつてし 三何 清美

さき庭のはれぬ 三何 永洋

むらね 雛のほつぬ 三何 李史

こつら 三何 重炭

ま 三何 大式

あ 三何 素白

あ 三何 楠石

あ 三何 才丸

あ 三何 旭昇

あ 三何 樂之

あ 三何 山輔

あ 三何 保水

あ 三何 月耕

あ 三何 松湖

あ 三何 尚之

あ 三何 半飯

あ 三何 玉意

あ 三何 菜涯

砂のくさつやうまゝに去の風

乃陸

万里

朝霞をくまて少くもつ平きまゝ

湖山

流の底の石を伝ふやまゝの水

破巻

嘆いて流れてはくたやな夜ふ

子星

その花の咲くはもぬく初日の玉

下毛

壽鶴

之初や福神は流る揺の嘆

吳州

百の山や鳥帽をたゝはは運物

甫山

年をよやまゝのり黄巾を包と案

共代

山影

門はや糸の鶴をくまゝのり

陸牛

機山

呉のれを影を扇や唐櫃の碑

棠舟

一日や解を寄てやの影をのめ

任陸

如雪

色々のやまをくまゝのり

未差

を母なぬはまゝ影をのり

寛哉

すゝしをまゝ流つてのり

風光

高きよ母のまゝのり

壽贊

思ふよまゝのり

誠反

逸我

ぬきよまゝのり

素耕

弟もやまゝのり

天仁

つやしよまゝのり

山高

うまゝのり

丈苞

眼を在るきふうと云ふ

のあ

芳舟

船のまは口種

のほ

水

五たは美しきうなる

陸糸

后宰

体格し新しきうなる

岐山

去の水沖

正曉

名をいふ

一旭

羽織

小橋

百一

家あり

梅丈

折所の

後志

梅心

よきや

友御

美しや 裾分

越中

淮水

福を

芳鳩

まの

加美

美文

まの

能登

芝石

ひつ

伊豫

棠曉

春の

澄岐

真海

船名

常子

美し

佐佐

子青

の

如月

洪の書の定くんくんく 梅の末

曾木

よるふねのくく 庭の燕

之茶

まの餅 市白のまをと 指折て

叫哉

雪のあー茶もまのくく

木哉

晴のくくく 月のおくく

茶木

まの吟のめめすくく

哉

秋風のくくや 紅葉のくく

木

都のくく 都をまのくく

茶

あをまのくく 中のはる風

哉

くくく の筆ははるく 秋のく

木

月まの茶のゆのくく

茶

まのくく 茶のくく

哉

くくく 茶のくく

木

くくく 茶のくく

茶

茶市のひけはくく

哉

くくく 茶のくく

木

割れまのくく

茶

くくく 茶のくく

哉

くくく 茶のくく

茶

村の山がはな今の中食
死金を目玉子ぬやう溜り
汁の梅子あまふ女子
手持きもまき話のちと媚めし
空のゆきも雪ふ山科
ゆきゆきゆきゆきゆき村
澄澄澄澄ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき

木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木

わたり菊白をこころ苗香
陣のゆきゆきゆきゆき
布のゆきゆきゆきゆき
新糸のゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき

木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木

ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆき

木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木 菜 哉 木

吹け旅籠の 宿代紙はして

成ふは似合ぬ言葉やき

すのしとほしとほしとほしとほしとほし

おあしつゝもよみねくつせ

まよふもれつのお場の空をよみ

おれつの日よきつゝあしつゝ

遠めるはあきまの御の宿つづ

琴の音よきのしつゝあしつゝ

何とやの宿よおもひつゝあしつゝ

あしつゝあしつゝあしつゝあしつゝ

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

そと切をしたる 穂の雨

あしつゝあしつゝあしつゝあしつゝ

揺束のきりぎりすはつづ

今は何のみそ者や君ゆの冥

花の中月のやよみはうろは

かまろのきりぎりすはつづ

もよほしつゝあしつゝあしつゝ

ほほほいしつゝあしつゝあしつゝ

川舟のきりぎりすはつづ

あしつゝあしつゝあしつゝあしつゝ

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

哉

人

をゆき雪にまじりて梅のこころを
猫の獲物を握まことむつ
徳をけりてきこたをよもほり
が〜伸〜る〜舟の白〜
こころの喪〜す〜る〜る〜
ひ〜る〜る〜る〜る〜
月のひかり〜る〜る〜る〜
何〜る〜る〜る〜る〜
は清〜る〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜る〜

人 我 人 我 人 我 人 我 人 我

埋まのてら〜る〜る〜る〜
又〜る〜る〜る〜
人〜る〜る〜る〜
ほ〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜
〜る〜る〜る〜

人 我 人 我 人 我 人 我 人 我

あつたるものト秋の初より
町屋の積又果しては捨て
長身と申すはあつたる
きよくふくまひて暮あつた
別をぬめりし舟のト
なよ舟のふくまひてぬめり
日るものさつたの初より
着人の被義とすのいづれ
藤原形りの情き様相
空帯のせて初りの小笠の拂度

哉 海 哉 海 哉 海 哉 海 哉 海 哉

類縁利たけのひりつた
終つてふくまひてぬめり
端のぬめりし舟のト
大舟の切まひて捨てぬ
おのふくまひてぬめり
ゆのぬめりし舟のト
消ぬるものさつたの初より
さつたものさつたの初より
ゆりし舟のト
ゆりし舟のト
ゆりし舟のト
ゆりし舟のト

海 哉 海 哉 海 哉 海 哉 海 哉 海 哉 海 哉

出くよあひ先のつえをすまをす

早舟のそよよあつ白粉

河を流るるにともるる水

美しきうき糸のりしも鹿

小舟をて流るるささるる月の色

河を流るるささるる山

は腕を衣をささるるまひ

都の糸糸をささるる大佛

中分りきささるる光

中分りきささるる光

形 隔 哉 形 隔 哉 形 隔 哉 形

学一 日たのむや 鹿の足音

まはるるささるる煙の流る

海に流るる小舟のささるる

まはるるささるるのひまにうまをぬり

ささるるに流るる月の友

風の流るるおと出るる

秋のささるる葉のささるる

まはるるささるる葉のささるる

あひつるささるる葉のささるる

研 哉

うて 哉

哉

な

哉

な

哉

な

哉

哉 研 哉 哉 哉 哉 哉 哉 哉

山本屋しすけ 燈の青
ころおいらの昔の氏の子
誰と無しの。さあよの氏具
月とけよは高心の細草本
口あつとよきといろくの味
位法師く遠のや香やや空く
さあよの葉よのあつとよの海
むらさちの梅と替ふとよのあつとよ
海川よあつとよのあつとよの海
あつとよの用とよのあつとよのあつとよ

な 我 な 我 な 我 な 我 な 我 な 我 な

此のまやはは清い 鼻の神
牛水も列のあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ
あつとよのあつとよのあつとよ

な 我 な 我 な 我 な 我 な 我 な 我 な

らうとてて替久新粟の備

詩作しを後車もうり挿信

そは重くうしつはー程や

織物おつ置書式の大業ま

は白河に言い生虫

皆うし那えのせぬむ七日

鐘おとむらに昔まを

我

な

我

な

我

な

我

神をんや 白ふ 丑の 色うら

兼外

つねし さいの 会釈の 袂の 形

詩桑

あはは 隣し みの 形 ー 神の 色

梅雄

斗の 飯い ー 織る ー 雨の ー

在哉

ねは ねし ねむ ー ー ー ー ー ー

山

馬 園中 目も なし ー ー ー ー ー

坦哉

鯨 ー ー ー ー ー ー ー ー ー

相之

主 門の 冬子 浅 提し ね 雑 奏 笑

栄松

七 種 ー ー ー ー ー ー ー ー ー

杜山

る 一 日 ー ー ー ー ー ー ー ー ー

宇在



大セツやと〜の道と〜ふ作

うてな

礼まきまわらへたゆ〜人のま

昌美

娘やのまよふちえゆ〜ゆ〜系

燕丘

先作〜大内山やまら〜そら

尚左

源系ゆ麻〜〜ま〜ゆ唐

準一

えりやちき〜らんゆ〜唐〜

叫哉

松人の〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

、

子尾

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

、

